

17 (水)

殺すか、殺されるか

マルコによる福音書六章14〜29節

なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。(20)

ヘロデ王はバプテスマのヨハネの教えを喜んで聞きながら、妻ヘロディアの陰謀により、彼を殺してしまいました。そもそもヘロデがヨハネを捕らえたのは、自分の罪をヨハネに鋭く指摘されたからでした。神の言葉は常に、私たちの内にある「古き人」(ローマ六6)、すなわち罪に従って生きようとする生き方を殺すようにと働きかけてきます。新しい命に生かすために、古き人を殺すのです。ところが、古き人は簡単には死なずに必死に抵抗し、古き人を殺そうとする神の言葉を逆に抹殺しようとして躍起になります。その激しいせめぎ合いの末、ヘロデは神の言葉を語るヨハネを抹殺しました。神の言葉が語られるとき、私たちの内にも同じ戦いが生じます。そのとき、神の言葉を殺してはなりません。神の言葉によって打ち碎かれることこそ、私たちにとっての祝福なのです。